112

特244
464

叢書 調査局

第三輯

英國の支那侵略とその制日政策

東亞協會

37
2

0011081000

0011081-000

特244－464

英国の支那侵略とその制日政策

東亜協会

昭和12

ABJ

特244
464

目次

支那事變に於ける英國の援支反日策動……（一）
英帝國主義の支那侵略過程……（六）
積極化せる英國の支那植民地化工作……（一〇）
東亞に挑む英國の極東軍備……（一九）
英國の制日政策と日本の使命……（二四）

英國の支那侵略とその制日政策

支那事變に於ける英國の援支反日策動

支那事變勃發以來、英國が一面に於て蔣介石政權を中心とする支那の抗日勢力に對して全幅的な支援と協力とを與へるとゝもに、他面に於て日本率制にあらゆる努力を傾けつゝあることは既に周知の事實である。これを軍事方面に見るに、英國は支那抗日軍隊の對日抗戰力の鞏化乃至維持の目的の下に、上海、香港兩地を通じて武器、彈藥、糧食その他の軍需品並にその資材を續々持ち込み、支那側の長期抗戰に多大の援助を與へ

てゐる。殊に戰局の擴大並に我海軍の全支海上に亙る支那船舶の航行遮斷による上海の港都としての機能漸次減退するや、香港は英國の對支軍事援助の中樞的重要地點となり、夥しい軍需品がこの地を通じて南支、中支方面に流入しつゝある。香港及び上海の外人筋よりの報道を綜合するに、香港政廳は事變勃發直後より各國軍需會社の香港を通じての武器賣込みを積極的に掩護し、ために香港は今や英、米、チエコを始め各國の主として猶太系の武器ブローカーの集合地と化し、これらのブローカーは香港總督の庇護の下に武器、彈藥の密輸に狂奔してゐる。その狂態に關して、香港の某英人商會の如きは憤激のあまり英本國に對して香港の實情を詳細報告しかゝる無法な亂狀のまゝで日本海軍の支那船舶航行遮斷の解除を希望するのはあまりにも利己的であるとの警告を發したとさへ傳へられてゐる。し

かも英國の對支軍事援助は單に軍需品の供給に止らず、或は南京の國防委員會に高級武官を派遣して抗日戰略の最高方針樹立に參畫せしめ、或は飛行將校、作戰參謀將校等を前線部隊に送つて對日抗戰の援助に努めてゐるが、更に上海方面に於ては露骨な援支制日振りを屢々發揮して我陸海軍將兵並に在留邦人を極度に憤激せしめてゐる。黃浦江に於ける支那軍艦の我第三艦隊旗艦に對する魚形水雷發射の掩護をなし、我陸軍の敵前上陸に際して故意に我軍の行動を妨害するが如き擧動を敢てしたが如きはその一班に過ぎないが、かゝる惡辣卑劣なる反日行爲は獨り上海のみに限らず、天津、香港方面に於ても執拗に繰返されてゐる。

また言論、報道に關しては支那側の惡意に充ちた不德極まる揑造と逆宣傳とを故意に受容し、これをロイテル通信によつて全世界に放送するのみ

ならず、佛、ソ兩國の通信社をも誘ひ込んで日本軍誹謗、日本の軍事行動攻撃に多大の努力を拂つてゐる。英國政府のかゝる態度はそのまゝ世界各地の屬領、植民地にも反映して、これらの地域に於ける言論機關は英本國のそれと同樣、報道に論評に實に驚くべき反日、侮日の宣傳、煽動を强行してゐる。

更に政治、外交方面を見るに、英國は獨りその本國並に屬領、植民地に於て援支反日政策を鞏化するのみならず、一面に於て國際聯盟を通じて國際的に且集團的に反日戰線の擴大鞏化を謀るとゝもに、他面に於ては米、佛、ソ各國を個別的に誘引して支那に對する精神的、物質的支援の氣運を助長し、日本を國際的に孤立無援の窮地に陷れんとしてあらゆる策謀を弄してゐる。過般の國際聯盟諮問委員會並に總會に於ける無法な反日的侮日的決議の如き、また白耳義を傀儡としてブラッセルに開催される九國條約調印國會議に於て日本を被告の立場に据へて事變對策を協議せんとしつゝあるが如き、凡てこれ英國の、政治的、外交的反日策動の具體的な現れである。

なほ英國は先年來日本の經濟的發展に對して不法な壓迫を繰返へし、我國の海外貿易に深刻な妨害を加へつゝあるが、支那事變勃發以後に於ては更にこの對日經濟壓迫の手を擴げ、その屬領、植民地に於て對日經濟封鎖の急務なる旨を宣傳するとゝもに、これを他の列强に向つても祕かに宣傳しつゝある。

かくて英國の援支反日策動は今や軍事、宣傳、政治、外交、經濟等あらゆる部面に亙つて强行され、しかもそれは日とゝもに愈々深刻化し擴大しつゝあるのであるが、英國は何故にかくまで惡劣執拗な反日的策動を敢へ

てするのであらうか？　この問題を解くためには、先づ英國と支那との過去及び現在に於ける關係を究明することが必要である。

英帝國主義の支那侵略過程

英國は十六世紀末葉から十七世紀にかけて、當時の世界的花形であつた和蘭、西班牙、葡萄牙、佛蘭西などゝの阿弗利加及び印度に於ける領土分割、植民地獲得の激烈な競爭に見事な勝利を博するや、その餘勢をかつて十七世紀の中葉には早くもその觸手を遠く東亞の大封建國家支那にまで伸ばした。英國と支那との當初の關係は、支那の頑强な鎖國主義に阻まれて極めて不自由窮屈なものであつたが、それでも英國は支那の排外的な堅壁のわづかな間隙を通じて印度產の阿片と支那產の茶、生絲との不等價交換

を行ひ、支那に蓄積された銀を續々吸ひ取つた。しかし僅かに南支の一角に於てのみなされるこの種の商取引のみでは、英國は決して滿足出來なかつた。英國は支那に對して再三使者を送り、これを或は說得せしめ或は威嚇せしめたがその鎖國の鐵扉は容易に開放される氣配も見へなかつた。こゝに於て英國は遂に砲門を開いて支那の鐵壁破壞を企圖し、所謂阿片戰爭を敢行した。

この戰爭は一八三九年、清國政府令によつて禁止されてゐる阿片を密かに持込まんとした英商が欣差大臣林則徐の命によつて逮捕され、その所持する阿片を悉く沒收燒却されたことに端を發する。即ち英國は翌一八四〇年、軍艦十六隻、武裝船五隻、運送船二十七隻、大砲五百十門、陸兵四千名を南支に急派して先づ廣東に猛擊を浴びせ、次いで舟山列島を占領し、

寧波、厦門を封鎖し、更に北上して首都北京に迫り、翌一八四一年には揚子江口より吳淞、鎭江に侵入し、遂に南京に迫つて一八四二年の南京條約を清國政府との間に强壓的に締結してしまつた。この條約によつて英國は

(一)廣東、厦門、福州、寧波、上海の五港の開港、(二)香港の割讓、(三)阿片賠償金六百萬弗の支拂、(四)公行(コウホン)(支那貿易商人のギルド)の英商に對する未拂負債三百萬弗の支拂、(五)戰費賠償金千二百萬弗の支拂、(六)公正なる關稅の設定その他の履行を支那側に承諾せしめ、英國による支那植民地化の巨大なる地盤を築いたのである。

次いで英國は一八五六年のアロウ號事件に藉口して天津條約を締結し、(一)揚子江沿岸の開放、(二)牛莊、芝罘、基隆(臺灣島)潮州、瓊州(海南島)の五港の新たなる開港、(三)內地旅行權、(四)通過稅の設定、(五)

沿岸貿易の確立、(六)治外法權の創設等の權益を支那から强奪した。

かくの如く武力による帝國主義的侵略の素地を全支に亙つて築き上げた英國は、他面に於て一八五〇年以來の太平天國(長髮賊)の亂に乘じて一八五四年上海海關設定の協約を締結し、次いで全支各地の關稅行政權に對する獨占的優先權を確保するに至つた。

かくて英帝國資本主義は、これらの尨大なる權益を背景として十九世紀中葉以後商品及び資本の輸入による支那の植民地化工作を着々進め、その支那に對する貿易額、投資額乃至借款額は歐洲大戰當時に至るまでの長い期間に亙つて終始壓倒的な優勢振りを堅持しつゞけ、天津、上海、香港を三大據點とする英國の經濟勢力は獨り支那の經濟、金融、財政をその根底より左右するに止まらず、政治的にもこれを强く拘束し、支那をして英國

の意嚮を無視しては重大なる動きを敢行することが出來ない狀態にまで縛り上げてしまつた。

加之英國は領土的にも支那から廣大な地域を掠めとつた。即ち條約によつて堂々と正面から奪取した南支最大の要地香港の他に、歸屬不明瞭を理由に緬甸を略し、西藏を奪ひ、新疆を事實上露西亞と分け取りし、更に緬甸より雲南へ、西藏より寧夏への武力による侵略は今日もなほ執拗に繼續されてゐるのである。

積極化せる英國の支那植民地化工作

かくの如く英國の支那に於ける經濟的、政治的勢力は一九一四年の歐洲大戰勃發前に於て既に決定的なものとなり、英國の驥尾に附して支那大陸に殺到し來つた列强勢力を尻目にかけて膨脹擧化の一途を驀進し來つた。

しかしこの趨勢は歐洲大戰によつて一大轉換を示し、英國が歐洲に於ける戰事に全力を傾注しつゝあつた四ケ年の間に、極東に於けるその尨大な勢力は日米兩國の經濟的進出によつて著しく控制され、その對支貿易額の如きも大體に於て日米に次ぐ第三位に轉落し、投資、借款の活動も終始凋落の氣運を示すに至つた。かくて一九一四年より約二十年の間、英國の支那侵略乃至植民地化工作は概ね現狀維持の消極的態度を餘儀なくされて來た。

しかしこの期間に於ても、英國は決して支那に對する關心を減少したわけではない。大戰終了直後より英國の極東政策は可能な範圍に於て常に活潑に動いて來た。巴里講話會議に於てまた華府會議に於て英國の極東現狀維持工作は相次いで奏効し、米國を誘ふて日本に山東還附を强要するのみ

ならず、海軍軍縮條約によつて米國の海軍力を自國と同等に、日本のそれを遙か下位に押し止め、九ケ國條約によつて支那に對する日本勢力の積極的な進出を最低限度に制限することに成功した。また思想的には平和主義人道主義、自由主義をあらゆる手段を用ひて徹底的に宣傳し、日米兩國民をしてその自由な飛躍發展に道德的疑問と逡巡とを覺へさせるに努めた。

然るに一九三四年に至り、英國の極東政策、特に對支政策は俄然一變し、日本との和協による支那現狀維持の政策は一轉して經濟、政治、軍事各部面に於て猛然積極化するに至つた。その理由としては歐洲大戰終了後既に十五年を經過して大戰による英國の創痍も漸次減退し歐洲大陸に對する政治工作もやゝ進捗を見るに至つたと同時に、一九三一年秋より急速に積極化した日本勢力の東亞大陸に對する發展によつて支那に於ける英國の優越的地位に深刻な不安を與へたことなどを指摘することが出來るであらう。

かゝる理由から再び積極化した英國の對支政策は、先づその政策遂行の必須的基礎として支那の國內的和平統一並に經濟建設及びその國際關係特に對日關係の正常化を要求した。而してこの基礎工作完成のキー・ポイントを英國は蔣介石政權の鞏化擴大、それによる全支の統一實現といふところにおいた。この英國の支那に對する基本的方針は、具體的には支那問題に關する日本との協調並に蔣介石政權の中央集權工作及び軍事、經濟、文化各般の建設工作に對する支援指導の鞏化といふ形をとつて現はれた。

一九三四年秋の英國產業聯盟代表バーンビーを團長とする日滿經濟視察團の派遣、その報告に基く對日滿親善ヂエスチユアの表明、翌一九三五年春の對支共同借款に對する日本の參加要請、同年初夏のリース・ロスの東

京訪問等は何れも極東に於ける日本との妥協による英國の在支權益擁護、對支經濟活動の安全保證等を目的とする工作の現れであつた。また一九三四年のハモンド少將の全支鐵道視察、一九三五年のリース・ロスの渡支、一九三六年のカーク・パトリックの支那赴任等は英國の對支援助指導工作の中樞をなすものであつた。

右のうち英國の對日協調工作は、その基本條件として中南支に於ける英國の經濟的、政治的活動に對する自由を日本が保證する代償として、英國は滿洲國の獨立並に北支の特殊地域化を實質的に承認する——換言すれば黃河と揚子江との中間地帶を境界として日支兩國の繩張りを劃定し、支那を實質的に分割せんとすることを企圖したものであつて、これは英國年來の宿望をそのまゝ吐露したものである。しかし日本は白人による支那の分割もしくは植民地化を絕對に非とし、支那は飽くまでも支那人の支那として健全なる發展を遂ぐべきものとの立場から、英國のかゝる狡猾不埒な帝國主義的侵略策動を斷乎一蹴した。加之濠洲、印度、蘭領東印度、海峽植民地、新西蘭土、緬甸、加奈陀等世界各地の英國屬領、植民地乃至その支配下にある地域に於て惡辣なる對日經濟壓迫を擧化しながら、支那に於てのみ日支間の協調を謀らんとする英國の利己的な企圖は日本側によつて眞向から反駁を蒙つた。かくて英國の橫暴我儘な對日懷柔工作は見事に失敗に終つたのである。

一方英國は鐵道建設並に鐵道行政の世界的權威ハモンド少將の前後半歲に亙る全支現有鐵道及び主要地域の視察に基く詳細なる報告並に鐵道建設計畫案に根據して南京當局との間に新たなる經濟建設、開發の交渉を進め

つゝあつたが、英國政府財政最高顧問リース・ロスの支那重要都市の經濟金融調査が進捗し、日本の對英妥協の望み極めて稀薄なる事實判明するに及んで、遂に英國獨自の立場より蔣介石政權を踊らせ、愈々一九三五年十一月四日支那幣制の大膽なる改革を斷行し、全支の金融財政に對する英國の支配權を完全に確立して對支投資の安全なる地盤構成に劃期的な躍進を示した。リース・ロスの支那に於ける工作は獨り金融問題に限らず、政治外交方面にても種々建策容喙し、南京の北支中央化策動、西南派切崩工作等にも有力な黒幕として駐支英國大使とゝもに活潑な活動をつゞけたが、この頃から英國は支那に於てもその日本制壓の毒牙を愈々露骨にあらはし事毎に日本勢力の大陸進出を妨害するとゝもに、支那官民の抗日運動に對する指導支援を益々積極化し、國際的には米、佛、ソ、各國を煽動して國

際反日戰線の擧化に努むるに至つた。次いで英國は通商貿易保證局駐支代表としてカーク　パトリツクを派遣し、長期借款による鐵道、工場その他の建設資材供給の準備を急がせたが、ハモンド、リース・ロス、カーク・パトリツク三者のリレーによる英國の對支侵略積極化工作は、一九三六年に入つて續々その實を結ぶに至つた。

而してその主力は英國年來の傳統を繼承して鐵道並に鑛業に傾注されたが、この最近二年間に於ける英國のかゝる對支活動が終始香港を中心として展開され、南京政權統治力の南方に向つての擴大と相俟つて、英帝國主義の經濟金融による侵略の手は南支一帶に擴がつた。かくて、廣東、江西、湖南、貴州、雲南等の西南支那各省は今や殆んど英國の支配下におかれ、南方反蔣勢力の最後の堡壘たる廣西省も漸次金融、財政方面よりして英國

の影響下に入らざるを得ない事情に立到つた。しかも英國が南支に活動の重點をおいたことは必ずしも北支、中支に於ける發展を斷念したことを意味するものでなく、寧ろこれによつて南方緬甸より印度に亙る地域の安全を保證し、新疆、寧夏等の支那邊疆地域强奪の可能性を增厚するとゝもに北方より南下する日本勢力に對する最も効果的な反擊力を充實し、更に楊子江以北の地にまでその支配力を伸張せんとの遠大なる野望に基くものであつて、これは蔣介石政權の北支並に西北支那の中央化工作積極化に對する英國の思想的、經濟的、軍事的援助並に煽動が猛烈を極めてゐた事實より推して全然疑問の餘地のないところである。

東亞に挑む英國の極東軍備

上述の如く英國は今や世界の最後に殘された豐饒廣大な半植民地支那の完全なる獨占を目指し、その獨裁勢力たる蔣介石政權を徹底的に自己の傀儡化し、金融、財政、經濟各般に亙つて强大な支配力を振ふに至つたが、これを確保し、更にその伸張擴大を期するために香港を中心とする武力的背景の鞏化に多大の努力を拂つてゐる。卽ち香港は華府條約によつてその防備の擴充を禁ぜられてゐたにも拘らず、英國は既に一九三五年以來極祕裡にこれが防備の改善鞏化に努め、一九三六年末華府條約の失効を俟つて俄然これを表面化し、香港は今や英帝國主義の東亞侵略のための第一線陣地として大規模な武裝を一應完了したものゝ如くである。香港の武裝が如何なる程度のものであるかはもとより明確ではないが、一九三五年頃には陸上部隊として步兵三個大隊、砲兵五個中隊、航空兵一個中隊、印度兵一

個大隊、海上勢力として巡洋艦九隻、航空母艦二隻、驅逐艦九隻、潛水母艦一隻、潛水艦十五隻、測量船一隻、砲艦三隻、補助艦五隻であつた。然るにその後の軍備擴充計畫によつてその海陸空軍力の增加並に香港及びその對岸九龍一帶の防禦施設は急激に擧化され、殊に廣東の中央化完成後は廣東との合作によつて香港、九龍、廣東を含む一帶の英支共同防衛陣地の構築が實踐に移された。而してこれに要する軍費は莫大な額に上つてゐるが、その最近二ヶ年間の香港政廳の軍事豫算のみをあげても大體次の如くである。

香港防備施設豫算（香港弗）

	一九三六年度	一九三七年度
義勇隊費	一五一、五六九	一五八、三六九
海軍義勇隊費	三六、九八八	四二、九一六
陸軍費	四、三六六、九〇一	五、三七八、六六〇
計	四、五五五、四五八	五、五七九、九四五

右の豫算表にも示されてゐる如く、香港政廳支出の軍費のみでも一九三七年は前年度に比して實に百餘萬弗の增加を見せてゐるが、英本國より派遣されてゐる極東艦隊並に海軍航空隊の擴充費は更に巨額の增加を來たしてゐるものと察せられる。加之英國は香港の防備完成の目的を以て、海南島の循環鐵道建設、海軍並に空軍根據地構築を急いでゐるが、これは表面上英支合作による該島の資源並に產業開發を名とし、米、佛兩國の投資希望があつたにも拘らず國民政府交通、鐵道兩部をしてこれを拒絕せしめたのである。英國はなほこの他に溫州、海州その他の沿海港灣乃至その附近

に英支合同の空軍或は潜水艦根據地を極祕裡に構築し、支那の抗日作戰に重要な役割を演ぜしむるとゝもに、支那に於ける英國海軍の勢力擴充に資せんと努めて來た。

しかし香港を中心とする英國のかゝる軍備は、それ自身孤立したものではなく、實に新嘉坡の尨大な軍備と不可分の聯繫をもつものである。新嘉坡の軍備はその地上部隊、海軍力乃至航空隊の實勢力が香港に比して遙かに大きいのみならず、その海軍根據地は最大級の戰艦を含む大艦隊を迎へ入れる準備を持ち、また巨大な船艦、地下に隱蔽された大石油タンク、墜道式の防空兵舍その他を備へ、更に昨年來尨大な豫算を計上して彼南を始め新嘉坡附近の要所々々に堅固なる堡壘、空軍根據地、給油處、兵舍等を相次いで急造してゐる。而して新嘉坡を根據とする艦隊及び空軍は常に香港と緊密なる職絡をとり、後者と前者とは實に英國の極東に對する軍備の第一線と第二線との關係にあるのである。

新嘉坡はかくの如く支那方面への重要なる軍事據點であるとゝもに、海峽植民地、印度、蘭領東印度等に對する防備根據地をも兼ねてゐるが、昨年倫敦に於いて立案された大英帝國の全領土に對する防備の地域的獨立化は、必然的に濠洲、印度、支那を含む亞細亞一帶の防衛陣の獨立を促すものと言はれ、その結果現在印度洋及び東支那海にある海軍勢力に更に地中海艦隊の一部を加へて強大なる亞細亞艦隊を編成し、新嘉坡を本據として廣汎な活動を行ふ豫定であると傳へられてゐる。

英國の制日政策と日本の使命

十六世紀末に開始された英帝國主義の亞細亞侵略は、爾來三百五十餘年の間に亞細亞の廣大な領土と數億の有色民族とをその鐵蹄下に蹂躙し、今や最後のゴールに入らんとして端なくも東海の皇國日本の斷乎たる反撥に遭遇し、この堅陣を擊破せんがために數世紀の長きに亙つて或は蓄積し、或は訓練し來つた金力と武力と策略とを總動員して死物狂ひの奮鬪を行つてゐる。先年來の英國の對支積極政策並に最近に於ける露骨惡辣なる對日牽制策謀は凡てその具體的な現れである。

既に周知の如く、ソ聯邦が全世界の國境を一齊に撤廢し、これを赤一色に塗りつぶすことを以てその根本方針としてゐるのに對して、西歐の一小島國から身を起した英國は、全世界をその膝下に慴伏せしむることを以て一貫不易の國是としてゐる。而してこの遠大なる野望達成の手段として、英國は面人心獸の魔術を用ひ、猶太民族の陰險、狡獪、無恥、貪婪の特性を所謂ヂエントルマンシップの假面にかくれて最大限度に發揮して來た。英國のこの世界征服の非人間的な手段は、外交に於ては徹底的な以夷制夷政策となつて現はれた。これを大戰後の歐洲に現れた事實に見るに、英國は戰後獨逸の疲弊に乘じて佛蘭西の勢力が膨脹すると見るや、昨日まで不俱戴天の敵として戰つて來た獨逸を扶けて佛蘭西を抑制せしめ、先年來ナチス獨逸が新興勢力としてフアシスト伊太利とゝもに勃興するや、忽ち掌をかへして佛蘭西及びソ聯と接近して獨、伊を牽制せしめんとした。英國のかゝる政策は極東に於てもそのまゝ施行され、曾て帝政露西亞の南下勢力强大な時代には日英同盟を締結し、巧みに日本を操つて一面露西亞帝國主義の南下に對する防壁たらしむるとゝもに、他面自國の在支權益に對す

る番犬の役割を演ぜしめたが、歐洲大戰後日本が飛躍的發展の氣勢を示すや忽ちこれと袂を別ち、或は米國を使嗾し、或はソ聯を煽動し、更に支那を支援して日本を窮地に追ひ込まんと企圖するに至つた。

かくの如く英國はその外交より一切の節操と信義と誠實とを完全に排除し、徹頭徹尾利己主義の立場を堅持して、世界の何處にも自國より强力なる國家の存在を許さず、凡ての國家乃至民族を自己より弱きもの、小さきものに止め、機を狙つてこれを漸次蠶食し、以て世界制覇の野望を達成せんとするところにその一切の行動の根本をおいてゐるのである。

この貪婪飽くなき英國の覇道的世界征服の傳統的國是に反し、我國は道義に基く萬邦協和、四海同胞の理想の下に自ら正しく生き、世界の凡ての民族を正しく生かさんことを國是とし、民族の最大使命としてゐる。從つ

て日本としては、貪鬼英國と勾結して隣邦支那四億五千萬民衆を奴隷の苦境に陷れるが如き政策は絶對に受容することは出來ない。否、英國の煽動と欺瞞と威嚇とによつて今や地獄の苦惱を嘗めつゝある隣邦の民衆を救出し、白鬼の魔手からこれを解放することこそ日本民族に課せられた當面の最大使命である。幾多の尊い人命と巨額の國帑とを費して戰はれつゝある支那事變が日本民族による隣邦民衆解放のための一大聖戰であり、ソ聯赤色帝國主義とゝもに英國白色帝國主義の支那大陸よりの徹底的驅逐こそ今次事變の根本意義であると言はれる所以もまたこゝに存するのである。

然るに日本の一部には、或は自己の直面せる苦境を囘避せんがために、或は既得の溫床を一刻も長く保持せんがために、また或は目前の利得に眩惑されて、今日に於てなほ英國との汚はしき妥協を企て、愚かなる對英接

近を圖らんとする徒輩があると傳へられるが、これは英國の何たるかを解せざる無知な輩か、乃至は自己の利益の前には國家も民族も忘れ去る利己の徒に限られることであつて、苟も我肇國の大精神、大理想に目醒め、日本國民としての自覺をもつほどのものにはかゝる企圖言論は絶對にあり得ない筈である。しかし英國は世界にその比を絶する巧言令色の國であり、欺瞞使嗾に長けた國である。純眞率直、ものゝ裏を考へ相手の肚を讀むことの不得意な我國民としては　今次事變が武力戰より漸次思想戰、宣傳戰、外交戰にその重點を移動するに伴ひ、特に相戒めて日本民族本來の眞面目を汚さゞるやう、否、この祖國未曾有の一大轉換期に際して見事回天の偉業を達成し得るやう奮起努力することが刻下最大の急務であらう。

（一二・一〇・三〇）

東亞協會設立趣旨

日華兩國提携協力して東亞の安定を確保し、亞細亞諸民族共存共榮の實を擧げ、以て世界平和と人類福祉の體制實現を期するは、是れ我肇國以來の一大國是である。苟も志を自國の彌榮に置き、思ひを亞細亞有色民族の將來に致すの士は、日本國民たると中華國民たるとを問はず、必然の歸結を茲に見出す可きである。

然るに、彼我の間、徒らに事端繁く、遂に日清の役以來の大衝突たる今回の事變を見るに至れることは誠に慨嘆に堪へない。由來日華紛爭の禍源は、一に中國爲政者の誤れる認識指導に歸す可きであるが彼の傳統的陋習たる事大主義と以夷制夷政策を以て常に日華兩國の間に第三國の介入容喙を誘導し、事態を益々混亂紛糾せしめて怪まざる民族心理は、其の最も重大なる原因として看過し得ざるものである。然も中國政府及び軍權は、赤色及び白色帝國主義列强を精神的、物質的支柱背景として我國に抗戰しつゝあるを以て、今次事變の責は一に中國に在り其の背後の列强に在るを知るべきである。

されば、皇軍の使命は、中國の誤れる政權、軍權の徹底的膺懲に依り彼の反省を促し、東亞和平の招來過程に於ける日華兩國の重大責務を明確に悟識せしむるに在る。

故に、今次事變に於ける我國の眼目は、中國の破壞に非ずして、皇道に依る中國の思想的、政治的再革命、再建設に在り、更に中國を誤らしめつゝある東亞の公敵たる赤色、白色帝國主義列强の侵略勢力を驅逐し、以て亞細亞民族の大同團結に依る復興大亞細亞の理想を實現せんとするに在る。

吾人は茲に着眼し、內に皇道雜新の實現を圖ると共に、使命を東亞の安定確保に置き、同憂先覺の士

と相結び、玆に東亜協會を創建し、大亜細亜の復興に必要なる一切の事業を遂行し、我が國是と國策の確立貫徹に資せんとするものである。

昭和十二年十月二日

東亞協會規約

一　本協會は、我肇國の大精神に基き、皇國の負ふ萬邦協和、四海同胞の世界的使命と亜細亜復興の大業に戮力參與す。

二　本協會は、右目的の遂行を期するため具體的方策を檢討樹立し、これを關係各方面に建策し、以て國運の發展と東亜の和平繁榮及人類福祉の向上に資す。

三　本協會は、東亜を中心とする世界の現實的情勢を檢究闡明し、以て我國民の時局認識の深化に努む。

四　本協會は、その目的達成の執行機關として當面左の一局四部を設く。

一、書記局　二、企畫部　三、調査部
四、出版部　五、講演部

五　本協會は、事業の一部門として日刊『東亜日日新聞』の發行に協力す。

六　本協會に主幹一名、理事若干名、書記若干名を置く。

七　本協會に顧問、評議員、賛助員を設く。

八　本協會に入會せんとする者は會員二名以上の紹介を要す。會費は一ヶ年十二圓とす。

昭和十二年十一月二日印刷
昭和十二年十一月五日發行

【非賣品】

編輯兼發行人　東京市澁谷區代々木初臺五〇八　八幡博堂
印刷人　東京市京橋區銀座西八丁目七
發行所　東亜協會